

貫気別川におけるヤマメ推定生息数の推移の分析

二風谷ダム魚道運用開始後に遡上した親魚に由来する平成9年におけるヤマメの推定生息数は3年前と比較して減少せず多数であるため、魚道が機能したものと考えられる。

二風谷ダム上流支川の貫気別川においてヤマメの推定生息数が平成10年に減少しているのは、

平成9年8月出水による頭首工部の落差の増大による親魚の遡上障害

続く越冬初期(平成9年11月)の洪水による産卵床内の卵及び仔魚へのダメージ

の2点が原因と考えられる。

大きな出水があった場合(平成元年11月、平成4年8月・12月、平成9年8月・11月、平成13年9月、平成15年8月)、翌年のヤマメの推定生息数が少ない傾向にある。

サクラマス親魚	
平成元年春から秋	遡上・産卵
平成2年春から秋	遡上・産卵
平成3年春から秋	遡上・産卵
平成4年春から秋	遡上・産卵
平成5年春から秋	遡上・産卵
平成6年春から秋	遡上・産卵
平成7年春から秋	遡上・産卵
平成8年4月に二風谷ダム魚道運用開始 平成8年春から秋	遡上・産卵
平成9年春から秋	遡上・産卵
旭第一頭首工(貫気別川)遡上障害 平成10年春から秋	遡上・産卵
旭第一頭首工(貫気別川)遡上障害 平成11年春から秋	遡上・産卵
旭第一頭首工(貫気別川)遡上解消 平成12年春から秋	遡上・産卵
平成13年春から秋	遡上・産卵
平成14年春から秋	遡上・産卵
旭第一頭首工(貫気別川)遡上障害 平成15年春から秋	遡上・産卵
旭第一頭首工(貫気別川)遡上障害 平成16年春から秋	遡上・産卵

サクラマス幼魚(ヤマメ)	
平成元年11月出水(ピーク 640m ³ /s) 平成2年6月調査	推定生息数(尾) 834 (-)
平成3年6月調査	推定生息数(尾) 2,215 (-)
平成4年6月調査	推定生息数(尾) 6,349 (-)
平成4年8月出水(ピーク 3,310m ³ /s) 平成4年12月出水(ピーク 390m ³ /s) 平成5年6月調査	推定生息数(尾) 355 (39)
平成6年6月調査	推定生息数(尾) 31,185 (30,936)
平成7年6月調査	推定生息数(尾) 24,542 (22,530)
平成8年6月調査	推定生息数(尾) 14,340 (12,390)
平成9年6月調査	推定生息数(尾) 36,849 (36,702)
平成9年8月出水(ピーク 1,960m ³ /s) 平成9年11月出水(ピーク 900m ³ /s) 平成10年6月調査	推定生息数(尾) 690 (0)
平成11年6月調査	推定生息数(尾) 0 (0)
平成12年6月調査	推定生息数(尾) 1,343 (1,343)
平成13年6月調査	推定生息数(尾) 908 (822)
平成13年9月出水(ピーク 2,000m ³ /s) 平成14年6月調査	推定生息数(尾) 0 (0)
平成15年6月調査	推定生息数(尾) 1,125 (1,105)
平成15年8月出水(ピーク 5,240m ³ /s) 平成16年6月調査	推定生息数(尾) 0 (0)
平成17年6月調査	推定生息数(尾) 0 (0)



二風谷ダム運用開始前

二風谷ダム運用開始後

サクラマスの一生(寿命)は主に3年で、同じ親子関係にあるものは3年を1サイクルとして繰り返されていくため、親子関係の違いにより3色に分けている。サクラマス幼魚欄のカッコ内の数値は、当歳魚推定数(尾)を示す。なお、「-」は当歳魚推定数(尾)が明らかになっていない。洪水ピーク流量は、平取観測所の観測値を示す。